



学校だより

桐里っ子 HP版

須坂市立井上小学校

平成28年8月24日

文責：校長 宮坂

いよいよ二学期がスタート！！「実り」の学期に。

長い夏休みが終わりました。家庭学習に、プールや外遊び、社会体育や地域の行事への参加、そして家族で過ごす大事な時間にと、充実して過ごし、少したくましく大きくなって2学期を迎えることができました。休み中に大きなケガや病気等の連絡・報告はなく、元気な顔がそろうことに感謝申し上げます。

学校のまわりのリンゴやブドウは、1学期に芽を出し、花を咲かせ、葉を青々と茂らせて栄養をどんどん作っていました。さあ、実りの時期＝2学期を迎えました。子どもたちがわくわくする学習づくりや「自分も友だちもすてきな」と満足を感じることができる生活づくりをめざして、職員一同一層務めてまいります。変わらぬご支援・ご協力をお願いします。（どんな相談事でも、担任をはじめ養護・教頭・校長がお伺いします。遠慮なくどうぞ）

「YES, I CAN！」

始業式校長講話の概略をお知らせします。

夏休みが明けて、元気な皆さんと朝のあいさつを交わすことができ、とても嬉しいです。たくさん楽しいことや面白いこと、悔しいことや考えたことがあった夏休みだったでしょう。夏休みの後半に、リオオリンピックがありました。そのお話をします。

誰だかわかりますか。女子バドミントンの奥原選手ですね。バドミントンのシングルで日本で初めてメダル、長野県出身としても個人で初めて夏のオリンピックでメダルをとった選手です。

奥原選手は小学校2年生からバドミントンを始めました。

アスリートは1年中運動をしているからこそ、ケガがつきもので、奥原選手も高校の時に大きなケガをしています。それも一度ではありません。最初は17歳の時に左ひざ半月板を損傷。さらに、1年後にも右ひざの半月板を損傷する大けがを負っています。2回目の怪我の時にはもうバドミントン選手としての生命が終わったと思ったくらいの怪我だったそうです。奥原選手はコートに入る前に「この舞台にたっていることを感謝して思い切り楽しもう」と言っているのだそうです。新聞には「小さな選択も目的意識をもって決断。何となく行動したことはない」と言い切る奥原選手の言葉を紹介しています。もう二度とバドミントンができなくなるのではないかと思うような大けがを乗り越えたことから、今、ここで、自分の精一杯を発揮できる幸運と大切さを噛みしめているのではないのでしょうか。

オリンピックや高校野球で選手たちが精一杯の姿を見せていることに、惹きつけられます。スポーツは、人が人とつながり、努力してもとめて、苦しくても辛くてもやりぬく姿が、その姿から想像できます。毎年おもわず胸が熱くなります。

井上小学校の皆さんも、毎日毎日たくさんのつながりや頑張りややりぬく姿を積み重ねています。

井上小学校の学校教育目標「明日の日本の力が育つ つなぐ・もとめる・やりぬく」二学期も素敵な姿をたくさん見つけたいと思います。

9月7日からはもう一つのオリンピック、パラリンピックが開催されます。人には、自分がやりたいと願い挑戦する勇気があれば大抵のことはできるのだと教えてくれるパラリンピックも、是非応援して欲しいです。キーワードは「YES, I CAN！」＝わたしは、できる！大丈夫、わたしはできる！